

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

# Documentation No.21

ドキュメンテーション



ノート PC の返却に集まった 9 期生の皆さん

## ドキュメンテーション学科 9 期生の卒業を祝して！

9 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。鶴見大学で過ごした時間は、如何でしたか。授業に興味に充実した学生生活を過ごしたことと思います。

さて、皆さんが入学されたのは 2012 年 4 月です。前年の 3 月 11 日に未曾有の地震と津波による東日本大震災がありました。福島から避難されている方々の帰還や原発問題等、未だに多くの課題が残されています。今年度、ゼミ合宿で宮城県にある東松島市を訪れました。東松島市は先の震災で大きな被害を受けた地区のひとつです。沿岸を走る JR 仙石線の周辺は、かつて多くの住宅や商店がありましたが、未だに空き地のままでした。ゼミ合宿の一日は、東松島市図書館で、絵本の入れ替え、廃棄本のリサイクル処理、返却本の排架、書架整理等のボランティア活動を実施しました。関東で生活していると、つい被災地のことを忘れがちですが、東松島市を訪れ改めて支援がまだまだ必要なことを感じました。

皆さんが在学された 4 年間で、ドキュメンテーション学科は社会と接する活動が大きく前進しました。イン

ターシップでは夏季休暇に企業や図書館で仕事を学び、海外研修や姉妹校（北京大学、中山大学、世新大学）からの国際インターシップでは英語での授業や留学生への国際交流ボランティアで活躍されました。皆さんがグローバルな社会で活躍するために、多くの経験を積まれました。さらに、ドキュメンテーション学科では益々社会との交流が盛んになるでしょう。

最後になりましたが、副学長と文学部長を歴任されました長塚隆教授、及び 6 年間の長きに渡り学科主任を務められた原田智子教授が、前年度定年を迎えられました。本学科の創設以来発展に貢献され、ご指導を賜りましたことへの御礼を申し上げます。そして本年度から、田辺良則教授と河西由美子准教授が着任されました。在学生、卒業生、そして教職員一同が、さらに躍進していけるよう頑張っていきたいと思います。

ドキュメンテーション学科 主任 角田 裕之

# 2015年度 卒業論文題目

## 📖 角田裕之研究室

- 青苺 慶一 指定管理者制度導入による図書館運営管理の変化の調査 —神奈川県内の市立図書館を対象に状況考察—
- 佐藤 夏樹 鶴見大学図書館における視聴覚資料のための新しい基本件名標目表の作成
- 豊川 春菜 本屋大賞に対する認知度および購買意欲向上の考察と提案
- 中嶋柚佳子 名画座衰退について鶴見大学生の映画に対する意識や動向調査および今後の発展への提案
- 西村 友里 日本昔話の異版における内容の変移
- 橋本 朋美 障害者における設置工夫と資料およびサービス提供している図書館の研究  
—公共図書館と点字図書館の比較および図書館改善の提案—
- 樋川 裕人 公共図書館におけるバリアフリーの現状調査と改善点の提案
- 細井絵理華 日本の漫画に対する英語圏における意識と考察
- 森田久美子 図書館情報学分野内の引用分析による有用文献の選出及び利用法の一考察
- 山本 雅也 日本小説のジャンル分け及び新しい分類方法の構築

## 📖 元木章博研究室

- 伊藤 和彦 自由記述文を用いた点字学習支援システムの開発と評価 —点字作成技能の習得を中心に—
- 岩本 龍哉 鶴見大学の避難訓練に伴うソーシャル安否確認の試行と評価
- 川崎 礼奈 Exif 情報を活用した大学生への授業実践 —情報発信に関する判断力を培う—
- 木村あおい 研究室内蔵書検索・貸借システムにおける通知メール自動配信機能の開発と評価
- 小峯 裕子 Web アクセシビリティの経年的変化に関する調査及び日米比較  
—アメリカ州立図書館と都道府県立図書館—
- 清水 諒太 「情報活用の実践力」の課題解決に向けたメディアリテラシーの学習による授業実践と評価
- 高橋 大地 国公立大学の Web ページにおけるバリアフリーマップの現状調査 —評価基準の策定及び質の評価—
- 並木 紅 犬の殺処分ゼロに向けた個体識別情報の是正案 —マイクロチップの標準化—
- 畑中 大吾 問題推薦機能を活用した点字学習支援システムの開発と評価
- 宮崎 律穂 市区町村立図書館における Web アクセシビリティの経年的変化に関する原因分析
- 吉野 里美 漫画「こどものおもちゃ」「Honey Bitter」におけるシーンとオノマトペの相関分析  
—拾い読み支援を目指して—

## 📖 田辺良則研究室

- 古正 侑己 サイバー犯罪の危険性認識に関する調査
- 山本健太郎 ネット依存の実態に関する中学生と大学生の比較分析

## 📖 久保木秀夫研究室

- 伊藤 大輔 賭博の歴史に関する調査・研究
- 梅原 竜斗 鶴見大学図書館所蔵『新古今和歌集』一条兼良本をめぐって
- 齋藤 康太 香具師の文献に関する研究
- 田子 勇人 学生野球の歴史に関する研究
- 永島 駿 日米野球の歴史に関する研究
- 羽澤 時紋 鶴見大学図書館蔵『後拾遺和歌集』残欠本に関する調査・研究
- 羽根田翔悟 日本のゴルフの歴史についての調査・研究



 河西由美子研究室

- 阿部 祐也 小学生向け課題図書の内容に関する調査研究  
 榎本 将人 郷土資料を基にした公立図書館の評価指標開発に関する研究  
 大日方夏実 神奈川県公立図書館におけるヤングアダルト・サービスの現状に関する調査研究  
 加藤 功紀 大学図書館の視聴覚機能に関する調査研究 一鶴見大学図書館視聴覚室の事例について一  
 川内 直美 公民館図書室の現状に関する調査研究  
 桐木 貴演 司書課程履修者の意識に関する調査研究 一鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科を対象に一  
 佐藤 寛人 鶴見大学図書館における学習アドバイザーに関する調査  
 菅谷 唯 東京都のブックスタート・フォローアップ活動に関する研究  
 松本 脩平 公立図書館の地域連携に関する研究 一神奈川県立図書館の事例について一  
 森 春奈 被災地の移動図書館に関する調査研究 一宮城県の事例について一  
 山崎 綾子 「図書館の自由」の問題事例に関する研究  
 吉田 康平 公立図書館の高齢者サービスの実態に関する研究 一横浜市の事例を中心に一

 大矢一志研究室

- 露木 直也 読書欲を刺激する項目の研究 一書店における棚論の試み一

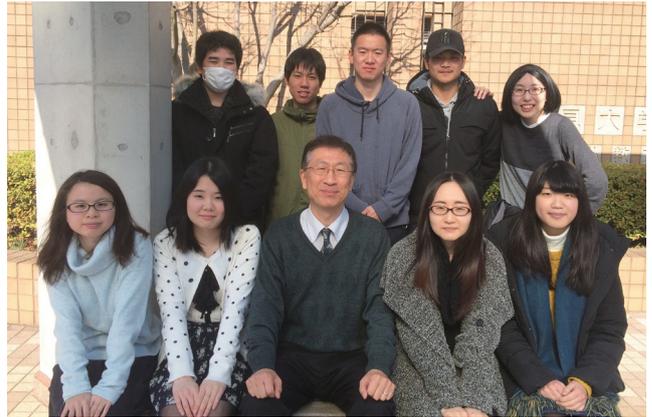
 伊倉史人研究室

- 金澤 成美 オノマトペの過去から現在への変化  
 齊藤 健太 御伽草子と日本昔噺の比較  
 佐藤 敦俊 江戸から現在までの教科書の移り変わり 一小学読本を中心に一  
 島田 美穂 旧字体から新字体への変遷  
 高橋 幸貴 明治期の野球規則について 一『戸外遊戯法』を中心に一  
 谷 真由子 草書の筆順について 一王羲之と孫過庭に学ぶ一  
 飛崎 皓平 時代の移り変わりによる『和英語林集成』の変化



### 📄 角田裕之研究室

角田研究室では図書館学に関わる論文を執筆する学生が集まっている。図書館で扱われる書籍、映像資料、サービスなどを題材にそれぞれが今後図書館の発展に繋がる研究を目指し、精進している。◇角田先生の暖かな人柄に演習中は皆笑顔で研究を楽しみつつ、意見の交換や新たな可能性について議論する。枠に囚われず、自由にとことん自分の研究をしたい人に向いている研究室だと言えるだろう。◇今期の夏休みには被災地支援の一環として宮城県へ赴いた。被災地にある図書館での現在の取り組みを見学、体験させて頂き貴重な経験となった。 [豊川春菜]



### 📄 河西由美子研究室

当研究室では、図書館学に関する研究テーマをゼミ生それぞれが発表し、ディスカッション形式で行われます。さらに、図書館総合展の見学や合宿での被災地図書館ボランティア等を通して、図書館について多角的に考える機会があります。図書館情報学と教育学専門教員の下、論文の基礎から学び、論理的な論文構成について学ぶことができます。また、角田研究室と合同で発表会を行うことで、様々な角度から自身の研究を見つめることができます。 [菅谷唯]



## 2015 年度 研究室紹介

### 📄 元木章博研究室

元木研究室では、点字やWeb アクセシビリティなど情報系を中心に、幅広い研究を行っています。卒業論文のテーマについては春休みの段階から元木先生と相談をして決めていき、完成へ向けて先生とミーティングを重ね、研究室では、同期の人たちと意見を出し合っています。また、合宿にはOB・OGの先輩方が来てくださり、そこで卒論のことや就活のお話を聞く機会が有り、アドバイスを頂けます。上下のつながりも広い元木研究室では卒論はもちろんのこと、それ以外にも目上の方に対する言葉遣いやマナー、スケジュールの管理の意識など、たくさん学ぶことができます。 [畑中大吾]



### 伊倉史人研究室

私の卒業論文の題目は「旧字体から新字体への変遷」でした。テーマが決まってからも具体的にどこから手を付けてよいかわからず、どのようなことを、どのように調べるべきか、毎回先生に聞いていました。◇先生はその度にアドバイスをくれるので、一応卒業論文を完成させることができました。◇ゼミの仲間も、私が調べてきたことについて、答えられないような質問をしてくれて、自分が考えていなかったことを気づかせてくれることもありました。◇他のゼミがどのような雰囲気かわかりませんが、伊倉ゼミに入れてよかったと思います。

[島田美穂]



### 田辺良則研究室

田辺研究室ではプログラム関係やデータベースなどの分野をメインに扱っています。先生の卒論の指導は丁寧で分かりやすく、質問しやすい環境でした。卒論の進行状況が今一步の時は個人的に補講を行って頂いたり大変お世話になりました。卒論を通して「調べる力」「人前で発表する力」など社会人になっても役立つことを身につけられたと感じます。

[山本健太郎]

### 久保木秀夫研究室

久保木研究室は書誌学を専門としたゼミです。古典籍について詳しく学ぶことができ、図書館にて古典籍を実際に手に取って調査することもできます。◆卒業論文演習では、自分自身が一番書きたいテーマを選ぶことができます。また、ゼミの学生全員と先生とで卒論の進捗具合の報告会が定期的に行われるので、他の生徒の卒論についても知ることができ、大変興味深かったです。◆卒論を進める上では、どのように書き進めていくか等、先生と一緒に考えてくださるので、悩んでいる時はとても頼りにさせていただきました。

[梅原竜斗]



### 大矢一志研究室

書き終えた卒論を手にしたとき私は重いと感じました。私を感じたのは紙の重みではなく自分が一年をかけて培ってきたものの重みでした。卒論に取り組んでいるときは壁にぶつかったり不安を感じたりするときもありますが、それを乗り越えてきた証を卒論の重さが語ってくれています。後輩のみなさんにも、後悔を感じるのではなく、書き終えた時にこの重みを感じられるよう、一年間取り組んでほしいと思います。

[露木直也]

宇佐美 千映子

図書館司書になることが私の幼いころからの夢で、卒業文集で将来の夢の欄に「図書館司書」とずっと書きつけてきました。司書資格を取るために一番良い環境で学びたいと考え、図書館がとても充実しているこの大学を選びました。◇入学してからは、今まで知らなかった専門用語や知識に授業でじかに触れることができ、楽しく学んでいます。不安だったパソコンを使用して行われる授業も、最初はタイピング練習からはじめ、今はなんとか授業についていけているかな、と思っています。◇2年生になれば、もっと専門的な授業も増えるので少し心配していますが、高校までの勉強では得られなかった知識が身につくと思うと、今から楽しみです。

石橋 将悟

私は高校時代、消極的な人間で、なかなか人と話せず、自分の意見をはっきり言えないタイプだった。大学ではそのようなことがないようにと、自分から人に話しかけたり、行事や委員会などに参加するなど、様々な試みをしている。◇その中でも、5月に行われた一泊参禅会には強い影響があった。寺に泊まるということに、当初はあまり気が乗らなかった。しかし、実際に参加してみて、その厳かな空気に心を洗われる思いがした。とても早い起床時間、心を統一する座禅、肉や魚や卵のない食事、本堂の清掃など、通常の生活では体験できないさまざまなことがあった。今では、それらがすべてよい人生経験になったと感じている。

葛原 遥

今までとは変わってクラスというものがなくなって、自分で時間割を組む、自由のある学生生活になったが、自分でしっかりと補講や休講、提出日や申込みの締切りを把握しておかなければならないとわかり、責任が伴うことを学んだ1年だった。◇古典基礎や書物文化論では、本物の古書に触れたのがうれしかった。思っていた感触とは違い、つるつるした紙質だったり、きれいな挿絵が入っていたりした。くずし字が読めるようになればもっと楽しくなるのだろう。◇図書館概論では、普段利用する機会がなかった専門図書館や、世界の図書館を学んだ。とくに図書館の建物自体についての授業が楽しかった。◇知らないことを学べるのを楽しみに、来年度もがんばっていきたい。

桑原 香奈

とても充実した学生生活を送れた一番の理由は、気の許せる友人たちと出会えたことです。司書資格を取得するという、私と同じ夢を持って入学した仲間と、同じ目標に向かって勉学に励むことができました。こういった友人がいなければ、地方から出てきて一人暮らしをしている私は、心細くて仕方がなかったかもしれません。◇次にサークルです。私はフットサル部に所属しています。優しく頼もしい先輩方ばかりなので、活動のある水曜日は前夜からウキウキしています。◇紫雲祭は入学当初から楽しみでした。兼部しているアパレル同好会で売った牛串は盛況で、午前中に売り切れるという想定外のことも起こり、とても嬉しかったのを覚えています。

## Book Review

林典子『人間の尊厳 ーいま、この世界の片隅でー』

2014 岩波書店 1040円(本体価格) 請求記号:360.4/H

文学部では何を学ぶのだろう。自分探しをしている学生はとても多いが、それも良いと思う。そもそも人文学とは、人を多面的に見つめ直す学問(humanities)であるのだから、作品を鑑賞しているのはまだ素人で、作者・人物を見つめることが求められる。この本は人間の尊厳を見事に写真で表現したルポタージュで、作者の成長の記録と共に、世界の出来事が報告されている。人を学ぶことが如何に大切であるかを改めて思わせてくれる。 [大矢一志]



## コース選択

### 図書館学コース これからの図書館のあり方について学びたい

清水 綾香

私は、来年度の専攻コースは図書館学を選択したいと考えている。1年生、2年生の時に、図書館学・情報学・書誌学の基礎を学び、どれも興味深く自身の知識や視点を広げる事が出来たと感じている。その中でも、この大学に入学し学びたい、と思うきっかけとなった図書館学の授業は、特に印象に残っている。ここ数年で図書館のスタイルは激動し、ラーニング・コモンズ、利用者教育、TSUTAYA 図書館など、新たな図書館サービスの受容が高まっている。この時期に図書館学を学ぶ事で、リアルタイムで発展している図書館について、より学び、考え、議論する事が出来、これからの図書館のあり方についてさらに興味がわいてきたため、図書館学コースの選択を考えている。

図書館学コース選択後は、公共図書館のこれからのサービスのあり方についてより学んで行きたいと考えている。公共図書館はあらゆる年代層や人々の利用対象とされているため、分けへだてなく、様々なサービスを行っていく必要がある。同時に人々の重要な情報源の一つであるため、図書館の持つ情報をより活用してもらう事で、再度、図書館という場の重要性を積極的に発信していく必要がある。岡山県立図書館や武雄市立図書館などが、新たな公共図書館サービスを提供し始めている中、住民にとってどのような図書館のあり方が理想的であるか、考えていきたいと思っている。

### 情報学コース 私が学びたいこと

荒木 孝介

私は3年次、情報学コースを選択するつもりです。入学前から情報学に興味がありました。鶴見大学に入学したのも文学部でありながら情報学も学べるということに魅力を感じたからです。

これまで鶴見大学で学んできた中で、最も興味をひかれたのはプログラミングです。プログラミングに興味を持ったのは2年次前期に開講された「プログラミング概論」でした。この授業では Arduino というものを使いプログラムを入力し、色々なものを動かします。まず最初に学んだのは LED ライトをチカチカと点滅させるプログラムです。このプログラム自体とても単純で簡単なものではあるのですが、私は成功したときに思わず「おー！」とこぼしてしまいました。その他にもプログラムを書いてミニゲームのようなものを作ったりし、どんどんプログラミングにはまっていきました。また2年次後期の「ネットワーク演習1」で学んでいる JavaScript を用いた動的な web ページ作成により、プログラミングに対する興味がより一層増しました。

3年生になってからもプログラミングに関する授業をとりたいと考えています。しかしその他の授業に関しても、バランスを取りながら勉学に励みたいと思います。

### 書誌学コース どこへ進むか

笹口 瑤季

現段階では、私は3年次に書誌学コースへ進もうと考えている。とは言っても最初から書誌学コースに決めていたわけではない。入学当初は「とにかくにも司書になるために有利なことを学ぶ」というような漠然とした考えしか頭になかった。コースのことを考えていたかどうかすらあやふやである。

このような無計画極まりない1年次であったが、ある意味では何も決まっていなかったからこそ様々なことに興味を持ってたとも思える。何気なく履修した書誌学の授業もそのうちのひとつであり、私が今までで最も面白いと感じた学問であった。くずし字の多様性や和紙の歴史は知れば知るほど心惹かれるものとなり、2年次である今ではコースの選択時の第1希望に挙がるまでに至った。

しかし逆に、情報学に対して尻込みしてしまったことは反省すべき点だろう。特に表計算ソフトの授業が苦手だった。書誌学の授業ばかり履修することは情報学から逃避する行為に他ならないのではないか。そのような後ろ髪を引かれる思いを残しつつ、やはりやりたいことをやると決意したのである。

私の大学生活も残すところあと2年だが、その中で私は貴重書の扱い方や電子化に関することを学びたいと考えている。現在は書籍の電子化が進み、紙媒体の資料は保存する方針に移行しつつある。自分の知識が役に立つ技能として求められるのは嬉しいことだ。

## 図書館総合展クイズ大会優勝記

柴田 悟司

昨年の11月12日、パシフィコ横浜で開かれた図書館総合展に行って来ました。これは全国の図書館関係者が集い、最新技術の紹介やポスターの展示、フォーラムの開催などを行うものです。学生向けに5分間の書評対決「ビブリオバトル」や各図書館のマスコットキャラ No.1を決める「図書館キャラクター・グランプリ」なども開催されています。

今回、私は読売新聞社のブースで行われたクイズ大会で優勝しました。制限時間内に読売新聞のデータベース『ヨミダス歴史館』から問題の答えを探し出すという、一風変わったクイズでしたが、大学で習った図書館情報学の知識や技術が役に立ちました。景品は同紙で連載している4コマ漫画「猫ピッチャー」のキャラクターグッズ数点でした。来年も機会があれば行こうと考えています。



## MOS 資格を取った理由

安野 沙央里

私が MOS（Microsoft Office Specialist）という資格を初めて知ったのは、情報基礎演習Ⅱの授業がきっかけでした。授業の教科書として MOS の資格を取るためのテキストが使われていました。情報学の授業は苦手意識がありましたが、テキストを見る限り私でも資格が取得できそうだったので挑戦してみました。

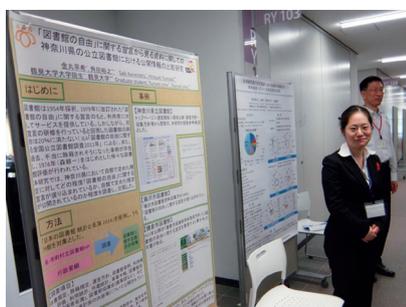
MOS 資格の勉強を授業と同時進行で行ったので、授業の予習復習にもなりました。また、わからない問題があったときにも先生や友人に聞きやすかったです。実際の試験問題とテキストの問題はとても類似したものであったので、多くの問題を解いていた私は試験問題をスラスラ解くことができました。

MOS 資格を取得すると、先生によっては成績の評価にプラスしてもらえたり、履歴書にも書けます。たくさん問題を解けば難しい資格試験ではないので多くの人に挑戦してもらいたいです。

# 大学院便り

## 情報メディア学会の研究大会に参加

金丸 早紀



昨年6月27日、同志社大学今出川キャンパスの良心館で開催された情報メディア学会第14回研究大会にて、ポスター発表を行った。これまでに都内の大学で2回発表を行ったことがあるが、関西での発表は初めてであった。

私は、「図書館の自由」に関する宣言から見る資料に関しての神奈川県内の公立図書館における情報公開の比較研究」という題目で、神奈川県における「図書館の自由」の現状について考察した。

発表は、まず自分の研究の魅力についてポスターを使って5分程度で説明した後、ポスターの前に立って質疑応答を受け、終了後は各自一番良かったと思う発表者に投票して最優秀賞を決めるというものであった。私の発表に対する質疑応答では、「図書館の自由」とは何か、調査した図書館と「図書館の自由」がどのように関わっているのかといった質問を受けた。修士論文では、「図書館の自由に関する宣言における要因別事例研究」という題目で、「図書館の自由」に関する宣言の現状について調査を行いまとめたが、ポスター発表での質疑応答が大いに役立った。

今回賞は逃したが、貴重な経験をさせていただくことができたと考えている。また、機会があれば、挑戦したい。

# 授業報告

## 情報サービス各論 II

3年生の「情報サービス各論II」では、図書館で生じている諸問題を、教育的なアプローチによって解決することを目指して、鶴見大学図書館を舞台にワークショップを企画実践することを課題としました。今年度は4班がテーマごとのワークショップを実施しました。以下はその実践報告です。 [担当教員：河西由美子]

### ワークショップ1

#### 図書館クエスト（キャラクターを活用した図書館探検とマップ作り）

川和田 渉

今回、自分たちはマップ作りのワークショップを企画、開催しました。自分がこの企画に参加した理由は、この大学に入学したての頃、ここの図書館を利用しようとしたときに本棚の配置がよく分からず、目的の本を探すのにとても苦労した経験があり、このように入学したての1年生やドキュメンテーション学科以外の学科の生徒などが図書館を利用しやすいようにしたいと思ったからです。

自分が軽い冗談で言った「勇者つるみん」のドット絵が採用された時はとても驚きました。ワークショップでは、図書館内を歩いて回りながら参加者たちにヒントを出していく役を請け負いましたが、参加者たちがとても楽しんでいる様子だったので企画したこちらもとてもうれしかったです。今回のことを生かしながらゼミをがんばりたいと思います。



製作：内野歩

### ワークショップ2

#### 映像資料から「おたずね本」をさがせ！（映像資料の活用）

永野 慎平

「参加者に映像資料を見せて、それに関連した本を見つけてくる」という企画は、準備や中間発表を進めていく段階で理想と現実と悩まされ、変更点も少なからずあった。

機材等についても、最初は映像資料やPCなど、必要最低限のものを借りることしか考えていなかったのだが、図書館職員の方々に積極的に相談をする中で、関連機材（スピーカー、ボード等）も、学生でも普通に使用できるという情報を得、ワークショップの参加者に伝えることができた。参加者のみならず、開催者である自分たちも学んだことが多くあったので、得たものは非常に大きかった。今後もこの課題で学んだことを、他のことにも活かしていきたい。

### ワークショップ3

#### その情報は真実ですか？（メディアリテラシー）

津村 星斗

私の班では嘘新聞を作り、嘘の有無を参加者に判断してもらうということを行いました。しかし、本当のような嘘を作るための情報収集は非常に難航しました。私の担当した部分は特に情報が少なく、図書館から調べだすというところが一番の難関になっていました。もう一度ワークショップを行う機会があれば、その時はもう少し自分で理解しつつ文献を探しやすい本当のような嘘にしたほうがよいのだと痛感しました。



図書館の階段をブラインドウォーク

### ワークショップ4

#### 図書館で目隠し体験（障がい者サービス）

楠井 優太郎

このワークショップは目隠しして障がい者体験をしてもらうもので、他のワークショップと違い事故が起こる可能性があります。最後の最後まで一番危険な階段にどれくらいの人数を割り、少ない人数で自分たちをどういった配置に置こうかで悩んでいました。班員の普段からはあまり感じられない気配りや真剣に危険性などを考えて行動が出来るところを、この学習を通して始めて知ることができたのが私としてはこのグループワークで一番大きい成果だと思いました。

## 【ダンレアリー・レキシコン図書館 [ダンレアリー、ダブリン、アイルランド]】

*dlr LexIcon, Dún Laoghaire, Ireland*

ダブリンの中心地から近郊鉄道のダートで約 20 分、避暑地でもあるフェリーターミナルの港町ダン・レアリー駅がある。駅を出て東へ海岸沿いを 2 分も歩くと、右手に緑の芝生の敷地に記念館のような建物が見えてくる。これが、地域の文化拠点として 2014 年に作られたばかりのレキシコン公共図書館である。

2F と 3F にある図書室は、広い長方形の柱のない空間を、階段と緩やかなカーブを上手く使い、各コーナーを自然と作り出している。広々とした読書コーナーには、大きなガラス窓があり、これは採光というよりも、海を見渡すためのもので、窓際のひとり席では、本を読むのでもなく外を眺めて物思いに耽っ



レキシコン図書館



吹き抜けのフロア

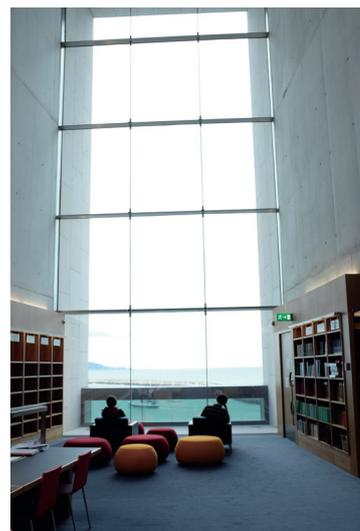
ている人がいた。柱の無い空間と、海に面した壁一面のガラスと、フロアの 1/3 が吹き抜けになっている開放感は、どこにたたずんでいても心地よい。これでは本が傷んでしまうのではないかと心配してしまうが、多くの書架はちゃんとガラス面の空間とは反対側の窓が小さいフロアーに置かれている。

吹き抜けのある一角とは反対側のエリアの 2F にはギャラリーが併設され、ここだけを見れば美術館である。3F には日本では公共図書館の 1 フロアが入ってしまいそうなスペース全てを見童書のコーナーとして使っている。この広いスペースの半分を、子供たちがくつろげる空間にしている。多くの子供たちが座ったり寝転んだりして楽しんでいた。

4F には地域研究の書籍と共に、学習向けの空間があるのだが、そのスペースのさらに奥には、海に面した天井まで届く一面ガラス張りの読書空間があり、まるで海からの輝く光をスタンドグラスに見立てた礼拝堂である。

実は、この図書館の建築までにはいろいろとあったようで、反対運動も活発であったようなのだが、出来上がったものはアイルランドの図書館の未来を示す、とまで絶賛されたようである。この図書館で時間を過ごすと、何故、景勝地の一等地で本を読んではいけないのか、と思ってしまう。横浜のベイエリアに、こんな空間があったらどれだけ素敵なことだろう。ダブリンの文化度は横浜よりも高い。

(大矢一志)



4F 奥の読書スペース

アクセス：鉄道ダートのダン・レアリー駅から徒歩 2 分。

開館時間：月曜 - 木曜 :9:30-20:00、金曜 - 土曜 :9:30-17:00、日曜は休館

アドレス：Haigh Terrace, Moran Park, Dún Laoghaire, Co. Dublin, Ireland

# インターンシップの報告

2015 年度

昨年10月26日、10回目となるインターンシップ報告会が開催されました。報告者は例年より少ない4名でしたが、熱意こもった発表で大いに盛り上がりました。ご参加いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

## 株式会社アプリコット

伊東 那月

私は、IT企業のアプリコットのインターンシップに行かせていただきました。そちらでは、IT企業では実際にどのような業務を行っているか、などの説明などを聞きました。入社後に受ける研修としてJava言語の研修なども受けさせていただきました。また、就職の不安等について面談させていただく場や、朝礼で発表をさせていただく場などをもいただき、色々と質問をする機会もいただきました。一週間という短い期間でしたが、とてもよい経験になったと思います。

## 株式会社横浜ステーションビル

坂爪 翔

特別実習Ⅰを履修しようと思った理由は、2つあります。一つ目は、実際に現場を体験することで、就職活動に役立てることが出来ると思ったからです。二つ目は、自分に営業職が適しているのかを確かめることです。私は、人と話をすることが好きなので、将来、営業職に就こうと考えております。ですので、営業職が学ぶことが出来る、株式会社横浜ステーションビルで実習を行いました。実際に体験をしてみると、自分が想像していた営業職とは全く違う営業職を体験することができ、いい経験になりました。そして、将来営業職の仕事に携わってみたいという思いがより一層強くなりました。

## 神奈川県立図書館

佐々木 文子

初めてのインターンシップ実習だったため、最初はとても緊張しました。そのため、実習先では失敗を恐れるあまり、必要以上に作業中、時間をかけてしまったこともありました。しかし、インターンシップ前から掲げていた目標である「様々な図書館業務を経験すること」を達成することが出来ました。その中には、私が実習前から経験したかった、利用者の方の本や情報に関する質問に回答するレファレンスサービスも含まれており、特に印象に残っています。実習中には、職員の方に貴重なお話もして頂き、図書館業務に関する理解も深めることが出来ました。大変なことも沢山ありましたが、その分自信が付き、今はやってよかったと思います。

## 株式会社紀伊國屋書店

中村 匡志

図書館司書を目指しているのですが、実際に図書館で働いた経験は無く、どのような仕事をするのか、具体的に想像することが出来ませんでした。ですが、紀伊國屋書店でのインターンシップを通じ、図書館業務委託サービスについて学び、大学図書館や公共図書館で実際に仕事を体験することで、より専門的な知識を身につける事が出来ました。このインターンシップの経験を元に、私がこれから学んでいかなければならない事や今後により活かしていくべき点を知ることが出来ました。



# 学科・学会活動報告

2015年8月～2016年3月

## ■ 9月25日・10月27日 学内合同企業説明会

約10～20社に来学いただきました。授業が重なっている学生もいましたが、4年生が説明を受けていました。

## ■ 10月26日 インターンシップ実習報告会

特別実習Ⅰとして実施されている授業の一環として、各々の学生4名によるインターンシップ実習報告が行われました。受け入れ先企業担当者様の参加もあり、ご意見やご助言等を頂戴しました(☞11頁に関連記事)。

## ■ 11月9日 研究室説明会

ドキュメンテーション学科の学生は、4年次に、学科教員の研究室に所属して卒業論文に取り組みます。そのため、3年生に向けて説明会を開催し、教員が各研究室の内容や活動について紹介しました。

## ■ 2月1日 1年生・2年生ガイダンス

1年生に対しては、2年次における履修の注意点などについて、2年生に対しては、3年次におけるコース選択などについて、それぞれ説明しました。

## ■ 2月1日 パソコン補習

2年生の必修授業(情報基礎演習Ⅱ〔アプリケーション〕)で表計算ソフト(Excel)を使いますが、その準備も兼ねて補習を実施しました。



※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第21号をお届けします。
- ドキュメンテーション学科9期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
- 恒例の見学会では、「キャンパスメンバーズ」制度を利用して東京国立博物館に行きました。学科の皆さんには、今後も大いに活用していただけたらと思います。

## ■ 2月4日 東京国立博物館見学会

国内外の貴重な美術品等コレクションをまとめて見ることが出来る東京国立博物館へ行って来ました。特別展「始皇帝と大兵馬俑」が開催中で、そちらに足を延ばした人もいました。



「巻物は、書物文化論で習ったのを思い出して見てみると、書いてある文字が読めたりしてうれしかった。とても勉強になったので、また来たいです。」[村上絵梨郁]

## ■ 2月20日 貸与ノートPC返却

今まで4年間お世話になったノートPCを返却する手続きを9期生全員で行いました。

## ■ 2月23日～3月2日 台湾でインターンシップ

台湾世新大学で行われた「特別実習Ⅱ(国際インターンシップ)」に、ドキュメンテーション学科の4名が参加しました。

## ■ 3月14日 平成27年度卒業式

ドキュメンテーション学科9期生の皆さんが卒業しました。卒業式後、学科別に教室へ移動し、学科主任の角田教授から一人ひとりに学位記が手渡されました。

ドキュメンテーション 第21号  
平成28(2016)年3月14日(月)  
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会  
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3  
☎045(581)1001 発行責任者:角田 裕之  
学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>